

乳児～成人の好酸球性消化管疾患、良質な医療の確保を目指す診療提供体制構築のための研究

研究分担者 石原 俊治 島根大学医学部内科学講座（内科学第二）教授

## 研究要旨

好酸球性消化管疾患（eosinophilic gastrointestinal disorders; EGID）が本邦で増加していること、疾患が難治性で診療に苦慮することなどから、EGIDs のさらなる啓蒙や情報収集、さらに診断や治療の診療体制構築が急務である。研究分担者は、EGIDs 診療体制構築（成人患者を対象）を担当し、EGIDs 診療に取り組むことができる医療機関の選定をおこなった。内視鏡検査や病理組織検査によって EGIDs の診断が正確におこなえることを確認し、47 都道府県（各県 2～5 施設）において 116 施設を EGID の診療体制を担う医療機関として選定した。選定した医療機関は研究班の WEB 上で公開し、一般の方・医療関係者の閲覧を可能とした。一方、成人の食物除去治療をおこなえる施設は極めて少なく、アンケート調査などによる診療現場の意見のフィードバックが不可欠であり、その結果を今後の研究に生かす必要がある。

### A・研究目的

本邦において 2000 年頃から増加している好酸球性消化管疾患（eosinophilic gastrointestinal disorders; EGIDs）は消化管に好酸球浸潤を主体とした炎症が持続する結果、様々な消化器症状や機能異常をきたす疾患の総称である。新生児から乳児に多い「食物蛋白誘発胃腸炎」、幼児から成人に多い「eosinophilic esophagitis（EoE）」、「eosinophilic gastroenteritis（EGE）」に分類される。EoE は嚥下障害やつかえ感などを主症状とし、一方、EGE は嘔吐、下痢、蛋白漏出による栄養障害などが生涯にわたる難治性疾患である。

最近、研究班が全国の 10000 医療機関を対象におこなった調査では、2906 施設から回答が得られ、最終的に 786 人の EGIDs 患者の臨床像を詳細に解析し報告した（*J Allergy Clin Pract* 2021）。

これまでの調査や研究成果から、EGIDs が本邦で増加していること、疾患が難治性で診療に苦慮することなどから、EGIDs のさらなる啓蒙や情報収集、さらに診断や治療の診療体制構築が急務であることは言うまでもない。そこで、本研究では、①EGIDs 情報センター Web 公開（患者、医師向け）、②EGIDs レジストリープロジェクト、③EGIDs 診

療体制構築、④Minds 準拠ガイドラインの 4 つを主目標として研究を遂行していくこととした。

### B.研究方法

研究分担者（石原）は、①EGIDs 情報センター Web 公開（患者、医師向け）、③EGIDs 診療体制構築（成人患者を対象）と WEB 公開を担当した。2021 年度は「成人を対象とした EGIDs 診療体制構築」を中心に研究を遂行し、以下の 2 点に着目して全国の医療機関選定をおこなった。各県 2 施設以上の診療可能施設の選定を目標とした。

1. 消化管内視鏡検査が適切におこなわれ正確な診断が可能な医療機関
2. 食物除去に習熟した拠点病院  
選定した医療機関は、小児対象機関（他分担者が担当）とともに Web 公開することとした。

### C.研究結果

#### EGID 診療体制構築（成人患者を対象）

成人の EGIDs や食物アレルギーを専門に診療する医療機関は極めて少ないことから、クローン病や潰瘍性大腸炎など消化管の炎症性疾患の診療を専門的におこなっている機関を中心にアプローチした。各医療機関に対しては、内視鏡検査や病理組織検査によって EGIDs の診断が正確におこなえることを確認し、最終的に 47 都道府

県（各県2～5施設）において116施設をEGIDsの診療体制を担う医療機関として選定した。選定した医療機関を研究班のWEB上に公開した。

一方、「食物除去に習熟した医療機関」は本邦では極めて少なく、現時点では、本治療を専門的にこなせる機関の全国に渡る選定と公開は困難であった。

#### D. 考察

本邦で増加傾向にある成人のEGIDsについては徐々に認識されつつあり、私共はEGIDsの臨床像や内視鏡像に関する総説を執筆し、疾患の存在と特徴のさらなる啓蒙に努めてきた。特にEoEについては、特徴的な内視鏡所見などから、本邦での発見例は急速に増えている。

拠点病院選定を含めた「診療体制構築」については、炎症性腸疾患などの診断を専門的にこなっている医療機関では、ある程度EGIDsの診断は可能と考えられる。しかし、臨床像についての詳細な知識や情報の共有は、今後の診療体制構築により一層必要と考えられる。一方、「食物除去に習熟した医療機関」については、都道府県ごとに選定することは現状では難しく、まずは、本治療法の可能な医療機関を拠点化し、新規の医療機関を増やすべく指導体制を構築することが第一歩と考える。

#### E. 結論

EGIDs診療体制構築（成人患者を対象）を担う医療機関を各県ごとに選定し、全国116施設をWEB上で公開した。

#### F. 研究発表（2021年4月～2022年3月）

##### 1. 論文発表

1. Nagano N, Araki A, Ishikawa N, Nagase M, Adachi K, Ishimura N, Ishihara S, Kinoshita Y, Maruyama R. Immunohistochemical expression of filaggrin is decreased in proton pump inhibitor non-responders compared with proton pump inhibitor responders of eosinophilic esophagitis. *Esophagus* 18: 362-371, 2021
2. Ishimura N, Okimoto E, Shibagaki K, Nagano N, Ishihara S. Similarity and difference in the characteristics of eosinophilic esophagitis

between Western countries and Japan. *Dig Endosc* 33(5):708-719, 2021

3. 沖本英子, 石村典久, 川島耕作, 石原俊治. 【腸管の希少疾患を学ぶ】好酸球性消化管疾患. *消化器・肝臓内科* 9(6): 585-593, 2021
4. 沖本英子, 石村典久, 石原俊治. 【増えている大人の消化管アレルギー】好酸球性消化管疾患・好酸球性胃腸炎. *診断と治療* 109(7): 957-963, 2021
5. 石原俊治, 沖本英子, 川島耕作, 石村典久. 【広義の炎症性腸疾患 (IBD)】好酸球性胃腸炎の診断と治療. *消化器内科* 3(9): 43-48, 2021
6. 石原俊治. 【好酸球性消化管疾患および類縁疾患・鑑別診断】好酸球性胃腸炎 (EGE). *消化器・肝臓内科* 11(2): 144-149, 2021

##### 2. 学会発表

1. 沖本英子, 石村典久, 石原俊治. シンポジウム 5. 好酸球性胃腸炎に対するステロイド投与後の治療経過に関する検討. 第107回日本消化器病学会総 2021年4月16日
2. 石村典久. 消化管アレルギー・好酸球性食道炎・胃腸炎. 第107回日本消化器病学会 ポストグラデュエイトコース 2021年4月18日
3. 石村典久. 好酸球性胃腸炎の診療 Update. 第5回日本難治性消化管疾患研究会 特別講演 2021年11月4日

#### G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得  
特になし
2. 実用新案登録  
特になし
3. その他  
特になし